



Infor LN 販売 販売マスターデータ ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	salesmasdatug (U9839)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
販売.....	7
第2章 販売品目データ.....	9
販売品目データ.....	9
品目グループの品目販売データとデフォルト販売データの指定.....	9
品目 - 販売取引先データの指定.....	10
在庫不足処理.....	10
利用可能在庫チェック.....	10
在庫不足オプションの実行.....	12
確約状況の割り当て.....	12
計画在庫処理の登録.....	14
タイムフェーズ在庫チェック.....	15
品目交換.....	16
代替品目.....	16
代替品目の設定.....	16
代替品目の使用.....	17
代替品目 (tcibd0505m000) セッションを自動的に開始する.....	17
リストグループからの品目の販売.....	17
リスト品目データの設定.....	17
第3章 販売組織データ.....	19
販売組織データ.....	19
販売オーダタイプの指定.....	19
販売オフィスの指定.....	19
ユーザプロファイルの指定.....	20
顧客承認.....	20
顧客承認の設定.....	20
納入済商品の承認.....	22
フレキシブルな販売オーダ処理.....	23
販売オーダ状況とフレキシブルな販売オーダ処理.....	26

購買オフィスと販売オフィス間のマルチサイト請求.....	27
レート換算基準.....	27
販売のレート換算基準.....	27
第4章 販売オーダーテンプレート.....	31
販売オーダーテンプレート.....	31
第5章 一般販売データ.....	33
一般販売データ.....	33
オーダー変更を追跡し、変更の理由を判断するデータの指定.....	33
オーダーブロックの理由の指定.....	34
オーダー優先順位シミュレーションの指定.....	34
オーダーの変更/確認.....	35
変更オーダーパラメータ.....	35
オーダーの変更および確認.....	35
変更の出力.....	38
EDI と新規ラインまたは変更の出力.....	38
追加コスト.....	38
追加コスト - 概要.....	38
追加コスト - 設定.....	39
追加コスト - オーダー基準.....	41
追加コスト - 出荷基準.....	42
付録A 用語集.....	47

文書情報

この文書では、販売のマスタデータを設定する手順を説明します。このマスタデータには、販売品目データの定義、販売組織データ、販売オーダーテンプレート、一般販売データが含まれます。

前提とする知識

このガイドを読む上で、LN ソフトウェアに関する詳細な知識は不要ですが、Infor LN の機能の一般知識があるとこのガイドの理解に役立ちます。

本書の概要

次の表にこのガイドの各章を示します。

章番号	章タイトル	内容
第 1 章	概要	販売の概要
第 2 章	販売品目データ	品目および品目関連データの設定
第 3 章	販売組織データ	オーダータイプ、販売オフィス、ユーザプロファイルなどの組織データの設定
第 4 章	販売オーダーテンプレート	オーダーテンプレートの設定
第 5 章	一般販売データ	変更コード、確認コード、オーダーブロック、オーダー優先順位シミュレーション、追加コストなどの一般データの設定

参照

このガイドは、販売マスタデータの第 1 の参照先として使用します。このガイドで説明されていない情報を調べるには、次の関連参照先の最新版を使用してください。

- 製品カタログユーザガイド U9815 JA
製品カタログの設定および使用を理解するために使用します。
- 販売見積ユーザガイド U9841 JA
販売見積手順を理解するために使用します。
- 販売オーダーユーザガイド U9845 JA
販売オーダー手順を理解するために使用します。
- 販売契約ユーザガイド U9844 JA
販売契約手順を理解するために使用します。
- 購買と販売スケジュールユーザガイド U9541 JA
販売スケジュール手順を理解するために使用します。
- 遡及請求ユーザガイド U9840 JA
遡及手順を理解するために使用します。
- 統計ユーザガイド U9816 JA
統計手順を理解するために使用します。

- キット処理ユーザガイド U9540 JA
構成要素の処理機能を理解するために使用します。
- CRM ユーザガイド U9653 JA
顧客関係管理機能を理解するために使用します。
- 条件ユーザガイド U9499 JA
販売条件機能を理解するために使用します。
- 販売業者管理在庫ユーザガイド U9501 JA
販売業者管理在庫機能を理解するために使用します。
- 外注ユーザガイド U9361 JA
外注機能を理解するために使用します。
- プロジェクトペギングユーザガイド U9777 JA
プロジェクトペギング機能を理解するために使用します。
- Infor LN 需要ペギングユーザガイド U9500 JA
需要ペギング機能を理解するために使用します。
- 価格設定ユーザガイド U9179 JA
価格設定機能を理解するために使用します。
- 資材価格設定ユーザガイド U9865 JA
資材価格設定機能を理解するために使用します。

本書の読み方

本書はオンラインヘルプのトピックを集めてまとめたものです。そのため、以下の例のようにその他のセクションへの参照が示してあります。

詳細は、「概要」を参照してください。参照セクションを見つけるには、本書の目次または巻末の索引を参照してください。

下線の付いた用語は、用語集の定義へのリンクが付いていることを示しています。本書をオンラインで表示する場合は、下線の付いた用語をクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義に移動します。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。また、ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。

販売

販売を使用して、販売活動を管理し、これらの活動の結果得られたデータをメンテナンスできます。

販売の主な手順は、販売オーダーと販売スケジュール手順で、品目を販売するための完全な管理手順が含まれています。通常、販売オーダー/スケジュール手順は、前後に他の手順が実行されます。

販売オーダー/スケジュール手順の前に行う手順は、次のとおりです。

- 販売見積手順
- 販売契約手順

販売には次のメインデータが含まれます。

- 販売マスターデータ
- 販売見積
- 販売オーダー
- 販売契約
- 販売スケジュール
- マージン管理
- 消費処理
- 遡及請求
- 手数料およびリベート
- 統計
- 販売パラメータ

販売品目データ

品目基準データでは、一般レベルで品目および品目データを定義できます。販売手順を完了するには、事前に販売関連の品目データも販売品目データに入力しておく必要があります。

品目グループの品目販売データとデフォルト販売データの指定

販売でオーダ処理を使用するには、事前に品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションで販売固有の品目データを指定する必要があります。品目が品目 (tcibd0501m000) セッションにすでに存在することを確認する必要があります。販売品目を入力するには、多くの情報を指定する必要があります。デフォルト値を生成した場合、新しい販売品目の入力時に必要なデータ入力量を大幅に減らすことができます。品目グループを品目タイプと組み合わせて使用すると、品目のデフォルトを設定できます。品目 - 販売デフォルト (tdisa0102s000) セッションで、品目グループに属する販売品目のデフォルトを入力できます。

品目販売デフォルトを指定し、販売品目を入力する通常の手順は次のとおりです。

1. 品目グループ (tcmcs0123m000) セッションで品目グループを入力します。
2. 品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションで、品目 - 一般デフォルトを定義します。ここでは、品目グループ (tcmcs0123m000) セッションですでに定義した [品目グループ] を入力する必要があります。
3. 品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションで、[販売] をクリックします。この結果、品目 - 販売デフォルト (tdisa0102s000) セッションが開始されます。このセッションでは、[品目タイプ] と [品目グループ] の組合せの品目 - 販売デフォルトを入力できます。
4. 品目 (tcibd0501m000) セッションで、すでに品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションで定義した [品目タイプ] および [品目グループ] の組合せの品目を入力します。この結果、品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションのデフォルト値が品目 (tcibd0501m000) セッションに挿入されます。
5. 品目 (tcibd0501m000) セッションで、[販売] をクリックします。この結果、品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションが開始されます。このセッションでは、品目 (tcibd0501m000) セッションで作成した品目の販売データを入力できます。品目 - 販売デフォルト (tdisa0102s000) セッションのデフォルト値が品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションに挿入されます。

品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションでは、次の販売関連の品目データをメンテナンスできます。

- オーダ処理データ

- 価格設定データ
- 超過納入に関連するデータ

備考

販売品目の処理を生成するには、品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションでオーダ処理関連の品目データを指定し、品目 - 原価計算 (ticpr0107m000) セッションで原価計算関連の品目データを計算する必要があります。

品目 - 販売取引先データの指定

販売取引先固有の情報を品目ごとに定義するには、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションを使用します。この情報は、特定の販売先取引先に販売オーダを販売および納入する方法を決定するために使用されます。この情報は、品目の品目販売データと品目倉庫データを上書きし、指定した販売先取引先にオーダを供給および請求する方法を決定するために使用されます。

ヒント

顧客 360 (tdsmi1500m000) セッションを使用すると、販売先取引先関連のデータを表示、メンテナンス、および作成できます。このセッションでは、特定の[アカウントマネージャ](#)に関連するすべての取引先を表示できます。顧客 360 (tdsmi1500m000) セッションを使用すると、販売先取引先情報の概要をすぐに表示でき、販売先取引先の関連データに簡単にアクセスできるので、アカウントマネージャは取引先の要求や提案を処理する日常のタスクを柔軟かつ正確に行えるようになります。

注意

品目 - 販売 (tdisa0601m000) セッションを使用しても、品目販売データと品目 - 販売取引先データを指定できます。このセッションでは、品目の最も重要な販売情報をすばやく入力できます。

在庫不足処理

利用可能な在庫をチェックして、販売見積ライン、販売オーダライン、および販売オーダ構成要素ラインの在庫不足を解決できます。

利用可能在庫チェック

次のパラメータによって、ラインの利用可能な在庫をチェックするかどうか、する場合にいつチェックするかが決まります。

販売オーダー (構成要素) ライン	販売見積ライン
販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)	販売見積パラメータ (tdsls0100s100)
[タイムフェーズ在庫チェック]	[見積ライン入力時の在庫チェック]
[拡張在庫チェック]	[確認時在庫チェック]
販売オーダータイプ (tdsls0594m000)	[処理中の在庫チェック]
[拡張在庫チェック]	[在庫不足時に処理]
[在庫チェック日時]	[拡張在庫チェック]

在庫チェック

ラインの挿入または更新時、在庫チェックが実行されます。

適用される在庫チェックは、検索の次の優先順位に基づいて決まります。

1. SCM Order Promiser による外部 OPS (オーダー確約サーバ) チェック
2. 企業計画による ATP (有効在庫)/CTP (確約可能在庫) チェック
3. 倉庫管理による在庫チェック

外部 OPS チェック

この在庫チェックは、次のすべてに該当する場合のみ実行可能です。

- [Infor SCM Promising Server] チェックボックスが導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションでオンになっている
- 品目が計画品目である
- [拡張在庫チェック] チェックボックスがオンになっている
- [在庫チェック日時] は [バッチ] に設定されます。

注意

- 外部 OPS チェックが適用される場合、SCM オーダー確約により在庫がチェックされ、在庫不足が外部で解決されます。
- OPS による在庫処理の結果、次の販売オーダー (構成要素) ラインフィールドが更新されることがあります。[計画済納期]、[倉庫]、および [オーダー確約状況]。納入ラインのある分割販売オーダーラインが発生することもあります。

ATP/CTP チェック

この在庫チェックは、次の条件に該当する場合のみ実行可能です。

- OPS 在庫チェックを実行できない

- 項目が計画項目であり、[販売の確約可能在庫チェック]チェックボックスが計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションでオンになっている

倉庫管理による在庫チェック

この在庫チェックは、次のいずれかに該当する場合のみ倉庫管理により実行できます。

- 品目が計画品目ではない
- 項目が計画項目であり、[販売の確約可能在庫チェック]チェックボックスが計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションでオフになっている

注意

販売見積の代替ラインは、状況が [確認済] または [処理済] になる前は、利用可能な在庫についてチェックされません。最高の成功率を持つ代替ラインの在庫がチェックされます。

在庫不足オプションの実行

ラインの在庫がチェックされて不足が検出されたら、いくつかのオプションを使用して在庫不足を解決できます。

在庫不足が自動的に解決されるのか、在庫不足メニュー (tdsls4830s000) セッションでの操作が必要かは、次の条件によって決まります。

- 販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションの [在庫不足の自動処理] チェックボックス
- 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションの [在庫不足の自動処理] フィールド

注意

オーダータイプに定義される在庫不足の自動処理オプションが販売オーダーまたは見積に適用されない場合、在庫不足メニュー (tdsls4830s000) が表示され、とるべきアクションが選択できます。

確約状況の割り当て

販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションおよび販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションで [拡張在庫チェック] チェックボックスがオンになっている場合、販売見積ライン、販売オーダーライン、在庫不足処理時に販売オーダー構成要素ラインの状況は確約状況になります。

状況は次のいずれかになります。

- [合格]
在庫チェックで在庫が十分にあるため、ラインを予定どおりに入庫できる
- [不合格]
在庫チェックで在庫が十分でないため、ラインを予定どおりに入庫できない
- [保留]
ラインが利用可能な在庫のチェックを待機している
- [例外]
在庫チェック時にエラーが発生し、マニュアルで解決する必要がある

各ラインの確約状況は、次の確約ラインセッションで表示およびメンテナンスできます。

ラインタイプ	確約ラインセッション	従属セッション
販売オーダーライン	販売オーダー確約ライン (tdsls4101m400)	■ 販売オーダー (tdsls4100m900) ■ 販売オーダーライン (tdsls4101m900)
販売オーダー構成要素ライン	販売オーダー確約ライン構成要素 (tdsls4563m200)	販売オーダーライン - 構成要素 (tdsls4601m000)
販売見積ライン	販売見積確約ライン (tdsls1501m200)	販売見積 (tdsls1600m000)

注意

- 状況が [不合格]、[保留]、および [例外] の販売オーダーラインと販売オーダー構成要素ラインは、不足をマニュアルで解決して、状況を [合格] に変更する必要があります。解決しない場合、リンクされた販売オーダーを承認できません。
- 販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションの [在庫不足時に処理] チェックボックスがオンの場合、販売見積ラインが販売オーダーラインに変換されると、販売見積ラインの確約状況は [不合格]、[保留]、または [例外] になります。[在庫不足時に処理] チェックボックスがオフの場合、販売見積ラインの確約状況は、販売見積ラインを変換するために、[合格] になる必要があります。

合格

次の場合、ラインはこの状況になります。

- 十分な在庫があるか、在庫不足が解決された
- 直送の状況など、ラインで利用可能な在庫をチェックする必要がない
- [拡張在庫チェック] 機能は導入されていません。

すべての (構成要素) ラインが [合格] である販売オーダーは、承認して処理を続行できます。詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダー手順

不合格

次の場合、ラインはこの状況になります。

- 十分な在庫がないか、不足を解決できなかった
- 販売オーダー確約ライン (tdsls4101m400)、販売オーダー確約ライン構成要素 (tdsls4563m200)、または販売見積確約ライン (tdsls1501m200) セッションで [例外] 状況のラインがマニュアルで [不合格] に設定されている

確約ラインセッションでは、在庫不足を次のようにして解決できます。

- 適切なメニューで、不足オプションのいずれかを実行します。

- 販売オーダ (構成要素) ラインでは、適切なメニューで [在庫販売オーダのチェック] をクリックします。在庫販売オーダのチェック (tdsls4217m000) セッションが開始され、オーダタイプの自動在庫不足処理オプションが検索されます。
- オーダ (構成要素) ラインまたは見積ラインは関連するセッションでマニュアルで更新します。

保留

販売オーダタイプ (tdsls0594m000) セッションで [在庫チェック日時] が [バッチ] に設定されていて、かつ次の条件が当てはまる場合、ラインはこの状況になります。

- 利用可能な在庫をまだチェックする必要がある
- [合格]、[不合格]、または [例外] のラインがマニュアルで変更され、利用可能な在庫を再チェックする必要がある

注意

ラインは、在庫販売オーダのチェック (tdsls4217m000) セッションまたは SCM Order Promiser で在庫がチェックされるまで、[保留] 状況となります。このチェックの後、ラインは [合格]、[不合格]、または [例外] に設定されます。

例外

LN で状況判断がなされない場合、ラインはこの状況になります。可能な場合は、メッセージログ (tcstl1500m000) セッションでエラーメッセージがログに記録されます。エラーはマニュアルで解決する必要があります。

注意

[例外] 確約状況の販売オーダ (構成要素) ラインは、在庫販売オーダのチェック (tdsls4217m000) セッションでは在庫チェックできません。それらのラインの在庫をチェックするには、確約ラインセッションの 1 つで [例外] ラインをクリックし、適切なメニューで [不合格に設定] を選択します。ラインの状況が [不合格] に変更され、在庫販売オーダのチェック (tdsls4217m000) セッションでの在庫チェックに含めることができるようになります。このチェックの後、[合格]、[不合格]、または [例外] 状況になります。

計画在庫処理の登録

計画品目では、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [販売の確約可能在庫チェック] チェックボックスがオンの場合、以下が適用されます。

- 販売オーダ (構成要素) ライン
オーダ確約状況が [合格] になると、計画在庫処理が作成されます。ラインの [合格] 状況が別の状況に変更された場合、計画在庫処理は無効になります。
- 販売見積ライン
販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションで、見積確約状況が [合格] になり、予想成功率が [タイムフェーズ在庫を考慮した場合の最小確率 %] 以上のとき、計画在庫処理が作成されます。ラインの [合格] 状況が別の状況に変更された場合、計画在庫処理は無効になります。

注意

販売見積ラインの非計画品目は、予想成功率が[タイムフェーズ在庫を考慮した場合の最小確率%]以上の場合にのみ計画在庫処理が書き込まれます。そのため、これらの品目は、販売見積ラインの確約状況に関わらず計画在庫処理が登録されます。

重要

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) チェックボックスが [Infor SCM Promising Server] セッションでオンの場合、計画在庫処理は常に計画品目のある販売オーダーラインに書き込まれます。これは、SCM Order Promiser がその機能に必要な入力として PIT データを使用するためです。

タイムフェーズ在庫チェック

タイムフェーズ在庫チェックでは、販売オーダーラインまたは販売見積ラインの場合に、品目のオーダーリードタイム時に十分な在庫があるかどうかをチェックできます。つまり、特定の時点での手持在庫と配賦の差異は無視されます。その代わり、LN では、オーダーリードタイムの全期間で手持在庫とすべての計画在庫処理間の差異が考慮されます。

LN によりタイムフェーズ在庫チェックが実行されるのは、次の場合のみです。

- 納期がオーダーリードタイム内にある
- 販売オーダーの場合、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [タイムフェーズ在庫チェック] チェックボックスがオンになります。
- 販売見積の場合、販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションで [見積ライン入力時の在庫チェック]、[確認時在庫チェック]、または [処理中の在庫チェック] パラメータが [タイムフェーズ] に設定されている

例

現在の日付	01-10	-
現在の手持在庫	100	-
計画済購買入庫	01-11	25 ユニット
計画済販売オーダー	10-11	100 ユニット
計画済販売オーダー	01-12	1000 ユニット
オーダーリードタイム	2 ヶ月	-

タイムフェーズ在庫チェックでは次の利用可能在庫が登録されます。

01-11	125 ユニット
10-11	25 ユニット
01-12	-975 ユニット

10月10日に100ユニットの販売オーダーを11月15日の納期で入力すると、タイムフェーズ在庫チェックが実行されます。納期はオーダーリードタイム内です(12月1日以前)。11月15日の利用可能在庫は25ユニットです。100ユニットの配賦は利用可能在庫を超えているため、適切なアクションが自動的に実行されるか、必要なアクションを選択可能な在庫不足メニュー(tds4830s000)セッションが開始されます。

品目交換

品目がもはや販売されない場合は、それを別の品目と交換できます。

代替品目(tcibd0505m000)セッションで、販売しなくなった品目と置換する品目を定義できます。交換される品目を販売オーダーラインまたは販売見積ラインに入力した場合、LNから交換品目を代わりに使用するかどうかの確認が表示されます。

代替品目

ある品目の在庫不足が発生した場合、販売先取引先に代替品目を提案できます。オプションで、オリジナル品目の利用可能在庫を使用し、残りの不足分を代替で埋めることもできます。

代替品目の設定

代替品目を設定するには、次のステップを実行します。

1. 代替品目(tcibd0505m000)セッションでオリジナル品目を入力します。
2. 代替品目(tcibd0105s000)セッションで、オリジナル品目の代替品目を入力します。オリジナル品目に複数の代替品目を使用できる場合は、[優先順位]フィールドで代替品目に優先順位を割り当てる必要があります。
3. 販売先取引先が、1回の出荷で利用可能数量のオリジナル品目と複数の代替品目の受領を希望する場合は、販売先取引先(tc4110s000)セッションの[複数代替品目の出荷可能]チェックボックスをオンにします。

販売先取引先が、1つの代替品目のみの受領を希望する場合は、このチェックボックスをオフにします。

代替品目の使用

手持在庫でカバーできない販売オーダーラインまたは見積ラインにオーダー数量を入力した場合、警告が表示され、オプションのリストが開きます。選択したオプションの1つにより代替品目 (tcibd0505m000) セッションが開始され、代替品目を選択できます。

販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [複数代替品目の出荷可能] チェックボックスがオンになっていて、最初に要求された品目の数量の一部が利用可能な場合、販売オーダーラインが2つの販売オーダーラインに分割されます。

- オリジナル品目の利用可能数量が記載された販売オーダーライン
- 選択した代替品目が記載された2つ目の販売オーダーライン

代替品目 (tcibd0505m000) セッションを自動的に開始する

在庫不足時に代替品目 (tcibd0505m000) セッションを自動的に開始するには、次の設定を使用します。

- 販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションで、[在庫不足の自動処理] チェックボックスをオンにします。
- 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションで、該当する販売オーダータイプを選択し、詳細セッションの [在庫不足の自動処理] の下で、該当するフィールドを [代替品目] に設定します。

在庫不足が認識された販売オーダーラインの品目およびオーダー数量を入力した場合、オプションのリストがバイパスされ、すぐに代替品目 (tcibd0505m000) セッションが開始されます。

リストグループからの品目の販売

販売先取引先にリスト品目を販売する場合、使用するリストグループを指定して、リスト品目を検索できます。取引先が複数のリストグループから購入できるか、デフォルトのリストグループからしか購入できないかを指定できます。

リスト品目データの設定

1. リスト品目は、品目 (tcibd0501m000) セッションで指定します。
このセッションでは、次のことを実行する必要があります。
 - [品目タイプ] フィールドを [リスト] に設定します。
 - [リストタイプ] フィールドで、品目について、キット、オプション、メニューのいずれかを指定します。
2. リストグループ (tcibd3101m000) セッションでリストグループを指定します。
3. リスト構成要素 (tcibd3100m000) セッションで、1つまたは複数のリスト品目と構成要素をリストグループに追加します。
4. 販売先取引先 (tccom4110s000) セッションで販売先取引先のリストグループデータを指定します。
このセッションでは次のことができます。
 - [リストグループ] フィールドでデフォルトのリストグループを取引先にリンクする

- 取引先が、デフォルトのリストグループからだけでなく、複数のリストグループからの購入が許可されている場合、[代替リストグループを使用] チェックボックスをオンにする

注意

販売先取引先 (tccom4110s000) セッションでデフォルトのリストグループを販売先取引先にリンクしない場合、販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [リストグループ] フィールドからデフォルトのリストグループが取得されます。

取引先に代替リストグループを許可する場合

取引先に複数のリストグループから品目を選択してもらう場合、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [代替リストグループを使用] チェックボックスをオンにします。販売オーダ (tdsls4100m900) セッションまたは販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションの [品目] フィールドにリスト品目を入力するときに、ブラウザが起動し、リスト品目とリンクされているリストグループおよび構成要素のツリー構造が表示されます。必要な品目を販売オーダラインまたは販売見積ラインにコピーするには、品目構成要素を選択し、ブラウザの適切なメニューにある [販売オーダラインのコピー] をクリックします。

取引先に代替リストグループを許可しない場合

取引先に1つだけのリストグループから品目を選択してもらう場合、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [代替リストグループを使用] チェックボックスをオフにします。この結果、取引先が選択できるのは、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [リストグループ] フィールドか、このフィールドが空の場合は販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [リストグループ] フィールドに入力されたデフォルトのリストグループのみです。取引先にリンクされているデフォルトのリストグループのリスト品目を、販売オーダ (tdsls4100m900) セッションまたは販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションの [品目] フィールドに入力すると、リスト別品目 (tcibd3500m000) セッションが開始されます。必要な品目を販売オーダラインまたは販売見積ラインにコピーするには、品目構成要素を選択して [OK] をクリックします。

注意

- キットタイプのリスト品目を販売見積ラインにコピーする場合は、販売オーダ部品表 (tdsls4532m000) セッションでキットの品目を表示できます。このセッションは、販売オーダ (tdsls4100m900) セッションでオーダラインを選択し、[ライン] タブの適切なメニューにある [オーダライン - 部品表構成要素] をクリックすると開始できます。
- 「キット」タイプのリスト品目を販売見積ラインにコピーする場合は、販売見積部品表 (tdsls1532s000) セッションでキットの品目を表示できます。このセッションは、販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションで見積ラインを選択し、適切なメニューにある [販売見積部品表] をクリックすると開始できます。

販売組織データ

販売手順を完了するには、事前に、販売オーダー手順の必須ステップを定義する販売オーダータイプ、販売契約、販売オーダー、販売スケジュールを作成するために使用できる販売オフィス、ユーザ固有のデフォルトデータを含むユーザプロファイルなどの販売組織データを指定する必要があります。

販売オーダータイプの指定

販売オーダータイプにより、オーダー手順に含まれる活動と、オーダー手順を実行する方法と順序が決定されます。販売オーダータイプが販売オーダーにリンクされると、販売オーダーは販売オーダータイプに定義された活動とオーダータイプに従って処理されます。

販売オーダータイプとそれらの活動を指定するには、次の手順を行います。

1. 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションまたはオーダータイプ (tdsls0694m000) セッションで、販売オーダータイプを入力します。通常オーダータイプおよび特別オーダータイプを指定できます。多くの場合、特別オーダーのオーダー手順は通常販売オーダーとは異なります。
2. オーダータイプ (tdsls0694m000) セッションの [活動] タブで、販売オーダータイプについて次の項目を指定する必要があります。
 - 実行する活動 (タスク)
 - これらの活動を実行する順序
 - 活動を自動で実行するか、それともマニュアルで実行するか。ここでは、販売オーダーの処理を自動化できます。詳細は、次の情報を参照してください: フレキシブルな販売オーダー処理 (ページ 23)

ヒント

あるオーダータイプにリンクしている活動のリストが、オーダー手順の実行時に適用可能なすべての処理を含んでいることを確認する必要があります。ある活動が該当のオーダータイプに適用されない場合、その活動が自動的にスキップされます。販売オーダー活動 (tdsls4113m000) セッションでは、販売オーダー (納入) ラインにリンクされた実際の活動と、活動の状況を表示できます。

販売オフィスの指定

販売オフィスにより、販売オーダー、契約、スケジュール、および販売見積を処理する場所が決まります。販売オフィスは、販売先取引先との取引を完了するのに必要です。1つの会社にさまざま

な販売オフィスを設定できます。販売オフィスを設定すると、ユーザプロファイルを定義できます。

販売オフィスを指定するには、次の手順を行う必要があります。

1. 部署 (tcms0565m000) セッションで販売オフィスを部署として定義します。
2. 販売オフィス固有のデータを販売オフィス (tdsls0512m000) セッションに指定します。部署がリンクされている企業単位は、販売オフィスの財務処理が転記される財務会社を示しています。販売オフィスと、販売オーダー、販売スケジュール、販売契約、または販売見積と組み合わせて使用する場合、適用可能なシリーズフィールドに入力する必要があります。

ユーザプロファイルの指定

ユーザプロファイルは、販売従業員のデフォルト情報を設定するために使用されるため、文書をより速く処理できます。販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションでは、ユーザをロゲインコードごとに販売オフィス、オーダータイプ、倉庫にリンクできます。ユーザが販売オーダー、販売契約、販売スケジュール、または販売見積を作成すると、ユーザプロファイルによりデフォルトが決定されます。これにより、販売関連の取引入力処理が高速化します。

顧客承認

顧客承認は、販売先取引先が商品について請求する前に、販売オーダーラインで納入された商品を承認する必要がある場合に設定できます。販売先取引先によって商品が承認されると、商品の所有権は発注先から販売先取引先に変更されます。

顧客承認が実装された場合、販売先取引先によって承認された数量に基づいて請求書をメンテナンスして送信する必要があります。不合格数量については、販売返品オーダーを自動で生成することができます。

顧客承認が導入されていない場合、倉庫管理で出荷が確認されたときに、商品の所有権が発注先から販売先取引先に変更されます。納入数量に基づいて販売先取引先の請求書が自動的に生成されます。

顧客承認の設定

顧客承認機能を使用する場合、次の手順を実行します。

ステップ 1: 導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000)

顧客承認を導入する場合は、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [顧客承認] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにできるのは、このセッション [オーダー管理 (TD)] チェックボックスもオンになっている場合のみです。

ステップ 2: 出荷先取引先 (tccom4111s000)

出荷先取引先 (tccom4111s000) セッションで、出荷先取引先について次のことを指定できます。

- 販売オーダーについて、納入済商品を承認する必要があるかどうか。必要がある場合は、[顧客承認] チェックボックスをオンにします。
- 納入済商品の不合格数量に関して販売返品オーダーを生成する必要があるかどうか。必要がある場合は、[不合格数量の返品] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3: 品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000)

ステップ 2 に記載の各フィールドと同様に、品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションで品目と取引先の組合せについて次のフィールドを定義できます。

- [顧客承認]
- [不合格数量を返品]

対象の品目が原価品目、サービス品目、外注品目、または設備品目である場合は、これらのフィールドを定義できません。

ステップ 4: 販売オーダータイプ (tdsls0594m000)

納入済商品の不合格数量について販売返品オーダーを生成する必要があるために、出荷先取引先 (tccom4111s000) セッションおよび品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションの [不合格数量を返品] チェックボックスをオンにしている場合、販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションでタイプが [返品不合格品] の販売返品オーダータイプを入力する必要があります。

オーダータイプが [返品不合格品] の販売オーダーは、常に自動生成されます。

ステップ 5: 販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000)

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [顧客承認] チェックボックスがオンの場合、販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッションで販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) の活動を該当のオーダータイプにリンクさせる必要があります。

販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) の活動は、次のタイミングまたは方法で実行する必要があります。

- 販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) または販売納入 (tdsls4101m200) の活動を実行した後
- 販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の活動を実行する前
- マニュアル。この場合、この活動についての [自動] チェックボックスはオンにできません。

オーダー手順内で販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) の活動を実行できるのは、次の場合に限ります。

- [顧客承認] が販売オーダーの品目と取引先に適用されている。適用されていないと、オーダー手順の実行時に販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) の活動がスキップまたは削除されます。
- オーダータイプが、返品オーダー、コレクトオーダー、コストオーダー、遡及請求オーダー、委託補充オーダー、または委託請求オーダーではない
- 品目が、原価品目、サービス品目、外注品目、または設備品目ではない

- 販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [在庫処理] フィールドで、品目の在庫処理状況が [構成要素別] に設定されていない

ステップ 6: 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [返品不合格オーダータイプ] フィールドに、タイプが [返品不合格品] の販売返品オーダータイプを入力します。このオーダータイプは、このセッションで商品を不合格にすると、および不合格商品についての返品オーダーを生成する必要があるときに、販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションの [不合格オーダータイプ] フィールドのデフォルト値になります。

納入済商品の承認

販売オーダー実際納入ライン (tdsls4106m000) セッションで実際納入ラインが挿入された後に、販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションによってこの実際納入ラインに対応する請求ラインが作成されます。このとき、請求数量は納入数量と同じ値になります。

販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションでの請求ラインの処理方法は、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [顧客承認] チェックボックスの設定に基づいて決まります。

顧客承認が導入されていない場合、次のようになります。

- 1 つの実際納入ラインに対して作成できる請求ラインは 1 つのみです。
- 請求ラインをメンテナンスできません。
- 生成された請求ラインを承認する必要はありません。このような請求ラインは自動承認されます。
- 販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) がオーダー手順内の自動活動ではない場合、販売オーダー (tdsls4100m900) セッションおよび販売オーダーライン (tdsls4101m900) セッションの [請求への発行] タブで、請求ラインを請求に発行できます。

顧客承認が導入されている場合、次のようになります。

- 該当する場合、納入数量のどの部分を承認 (請求) できるようにするか、およびどの部分を不合格にできるようにするかを指定する必要があります。
これにより、次の各フィールドをメンテナンスできます。
 - [請求数量]
 - [不合格数量]
 - [納入タイプ]
 - [不合格オーダータイプ]
 - [不合格理由]
 - [承認日]
- 不合格商品についての返品オーダーを生成する必要がある場合、返品オーダーのフィールドが指定済であれば、ユーザが請求ラインを承認した後に、返品オーダーが生成されます。
- 納入数量の一部が承認されているか、不合格になっている場合に、ユーザが請求ラインを承認すると、承認済数量および不合格数量が実際納入ラインに累計されます。この累計数

量が納入数量より少ない場合、残りの数量のための新しい請求ラインが生成されます。つまり、1つの実際納入ラインに対して複数の請求ラインを作成できます。

- [指定販売オーダーラインの発行] または適切なメニューの [販売オーダー/スケジュールの請求への発行] をクリックして、承認済の請求ラインを請求に発行する必要があります。

注意

- 販売オーダー請求ラインを承認するには、目的のラインを選択して、販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションの適切なメニューで [承認] をクリックします。この結果、請求ラインの状況が [フリー] から [承認済] に変わります。
- 販売納入 (tdsls4101m200) セッションで、原価品目およびサービス品目の納入をメンテナンスする必要があります。この結果、販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションで請求ラインの状況がただちに [承認済] に設定されます。

記述されているすべてのアクションは、販売オーダー (tdsls4100m900) セッションおよび販売オーダーライン (tdsls4101m900) セッションの [請求ライン] タブで実行することもできます。

フレキシブルな販売オーダー処理

販売オーダーの処理を自動化できます。オーダータイプにリンクされている活動ごとに、実行モードを自動またはマニュアルに指定できます。

オーダー処理活動の実行は、ユーザがオーダーを承認したときに開始できます。オーダーの承認後、活動を自動化しないように定義されていない限り、すべての自動活動が連続して実行されます。自動化しない活動をマニュアルで実行すると、次の自動化された活動が連続して実行されます。

フレキシブルなオーダー処理を有効にするには、まず次のデータを指定する必要があります。

1. 販売オーダータイプと販売オーダータイプ活動
2. ユーザの (エラー) レポートの出力先となるデフォルトデバイス

販売オーダータイプおよび活動

オーダータイプ (tdsls0694m000) セッションで、販売オーダータイプとこれらのオーダータイプへのリンク活動を指定します。活動の [自動] チェックボックスをオンまたはオフにすることで、実行モードを指定できます。

必須活動

オーダータイプ (tdsls0694m000) セッションでオーダータイプを作成すると、販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッションの [活動] フィールドで、そのオーダータイプに次の事前定義の必須活動が自動的にリンクされます。

- 販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000)
- 販売納入 (tdsls4101m200)
- 販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000)
- 納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000)

注意

委託補充オーダータイプの場合、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の活動はリンクされません。遡及請求オーダータイプの場合、販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) の活動はリンクされません。

オプション活動

次のオプション活動は (再度削除可能)、販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッションにも自動的にリンクされます。

- 販売オーダー確認/RMA の出力 (tdsls4401m000)
- 販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000)
- プロジェクト別標準原価の計算 (tipcs3250m000)
- 輸送オーダーの生成 (tdsls4222m000)
- 販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000)
- 購買オーダーの生成 (tdsls4241m000)
- 製造オーダーの生成 (tdsls4243m000)
- 在庫約定の生成 (whinp2200m000)
- 販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000)
- 販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100)

注意

次の例外が適用されます。

- 返品オーダータイプ、コレクトオーダータイプ、コストオーダータイプ、遡及請求オーダータイプ、および委託オーダータイプの場合、販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) の活動はリンクできません。
- 販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) および販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) の活動を自動活動として定義することはできません。これらのセッションではまず請求数量をメンテナンス、承認、または確認する必要があるため、これらの活動は必ずマニュアルで実行する必要があります。
- 遡及請求オーダータイプ、コレクトオーダータイプ、およびコストオーダータイプの場合、輸送オーダーの生成 (tdsls4222m000) の活動はリンクできません。これは、販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションの [委託請求] チェックボックスがオンの場合でも同じです。

活動の実行

次の活動がオーダータイプにリンクされている場合、これらの活動をオーダー手順に実際に追加するかどうかは、オーダー手順中に自動的に決定されます。

- 販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) と販売納入 (tdsls4101m200) 販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) および販売納入 (tdsls4101m200) の活動はいずれも必須活動としてオーダータイプにリンクできますが、オーダー手順では販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) の活動または販売納入 (tdsls4101m200) の活動のいずれかが実行されます。販売オーダーに対して両方の活動を実行することはできません。これは、原価品目またはサービス品目のある販売オーダーに該当します。品目 (tcibd0501m000) セッションで [品目タイプ] が [原価] または [サービス] に設定されている品目が販売オーダーにあり、その品目について品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスがオンの場合、販売オーダーが倉庫管理に発行されます。[倉

庫に発行] チェックボックスがオフの場合は、販売納入 (tdsls4101m200) セッションで販売オーダーの入庫をマニュアルでメンテナンスする必要があります。

- 販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100)
この活動は、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [顧客承認] チェックボックスがオンになっている場合にのみ、有効化されるか、実行する必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: 顧客承認 (ページ 20)
- 販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) 購買オーダーの生成 (tdsls4241m000)
販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) または購買オーダーの生成 (tdsls4241m000) の活動のいずれかをオーダータイプにリンクできます。このようにして、クロスドッキングオーダーと直送オーダーを作成するには、まず購買オーダー勧告を生成する必要がありますかどうかを判断できます。
- 製造オーダーの生成 (tdsls4243m000)
この活動は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [納入タイプ] フィールドが [製造] に設定されている場合にのみ、有効化されるか、実行される必要があります。
- 輸送オーダーの生成 (tdsls4222m000)
輸送オーダーの生成 (tdsls4222m000) を活動としてオーダータイプにリンクしている場合、この活動の実行は実際には販売オーダーラインまたは販売オーダー納入ラインで管理されます。詳細は、次の情報を参照してください: 輸送オーダー管理と販売の統合
- 販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000)
詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッション
- プロジェクト別標準原価の計算 (tipcs3250m000)
プロジェクト別標準原価の計算 (tipcs3250m000) を活動としてオーダータイプにリンクする場合、カスタマイズ品目のある販売オーダーラインを入力するとこの活動が販売オーダー手順に追加されます。プロジェクト別標準原価の計算 (tipcs3250m000) セッションで、販売オーダーラインがカスタマイズ品目の計算済標準原価によって更新されます。低価法 (LCMV) を使用している場合、プロジェクト別標準原価の計算 (tipcs3250m000) セッションの [過去の日付の評価額を対象とする] チェックボックスもオンになっていると、販売オーダーラインだけがカスタマイズ品目の計算済標準原価によって更新されます。
- 在庫約定の生成 (whinp2200m000)
詳細は、次の情報を参照してください: 在庫約定の生成 (whinp2200m000) セッション

重要

あるオーダータイプにリンクしている活動のリストが充実していて、オーダー手順の実行時に適用可能なすべての処理が含まれていることを確認してください。オーダータイプに適用できない活動は、LN で自動的にスキップまたは削除されます。

販売オーダー (納入) ラインにリンクされた実際の活動と、活動の状況は、次のセッションで表示できます。

- 販売オーダー活動 (tdsls4113m000)
- 販売オーダーライン状況 (tdsls4534s000)
- 販売オーダー入力ワークベンチ (tdsls4601m200)

デフォルトデバイス

販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションでユーザにレポートを出力するデフォルトのデバイスを指定します。

販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションでユーザプロファイルを挿入すると、次の出力セッションがユーザ別デフォルトデバイス (tdsls0140m000) セッションに自動的に挿入されます。

- 販売見積の出力 (tdsls1401m000)
- 販売契約確認の出力 (tdsls3405m000)
- 販売契約督促状の出力 (tdsls3406m000)
- 販売オーダー確認/RMA の出力 (tdsls4401m000)

出力セッションごとに、ユーザ別デフォルトデバイス (tdsls0140m000) セッションでの出力に使用されるデバイスを定義できます。このセッションは、販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションの適切なメニューにある [ユーザ別デフォルトデバイス] を選択すると開始されます。ユーザ別デフォルトデバイス (tdsls0140m000) セッションの [デバイス] のデフォルトには、販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションの [デバイス] の値が設定されますが、ユーザ別デフォルトデバイス (tdsls0140m000) セッションで上書きできます。

外部文書を出力するデバイスの検索は次の順序で行われます。

1. ユーザ別デフォルトデバイス (tdsls0140m000) セッション
2. 販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッション
3. デバイスが見つからない場合は、マニュアルでデバイスを選択する必要があります。

内部文書を出力するデバイスの検索は次の順序で行われます。

1. 販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッション
2. 販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッション
3. デバイスが見つからない場合は、マニュアルでデバイスを選択する必要があります。

注意

- エラーレポートを出力する場合、販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションの [デバイス] フィールドに入力されたデバイスが常に使用されます。デバイスが指定されていない場合は、マニュアルでデバイスを選択する必要があります。
- 自動で実行される活動の場合、処理レポートは出力されません。

販売オーダー状況とフレキシブルな販売オーダー処理

フレキシブルな販売オーダー処理は、販売オーダーが [承認済] 状況になると開始されます。

承認済販売オーダーのライン (詳細) が変更されると、オーダーヘッダ状況が [修正済] に変更されます。変更された販売オーダーラインは、この時点で、オーダー活動の自動実行から除外されます。販売オーダーを再承認する必要があります。

注意

オーダーを特急オーダーとして指定した場合、そのオーダーが [承認済] 状況にならない限り特急で処理されません。特急オーダーが倉庫管理に発行されると、通常販売オーダーよりも高い優先順位が与えられます。

例

オーダータイプ連番	活動	自動
1	販売オーダー確認/RMA の出力 (tdsls4401m000)	あり
2	販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000)	あり
4	納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000)	なし

販売オーダー確認/RMA の出力 (tdsls4401m000) は自動の活動であるため、販売オーダーは承認されると出力されます。次に、販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) の活動が自動実行されます。ただし、納入済販売オーダーは納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションでマニュアルで処理する必要があります。

購買オフィスと販売オフィス間のマルチサイト請求

直送の場合、販売オフィスは顧客からお金を受領し、購買オフィスが商品の発注元に支払います。このため、両方の財務会社の会計帳簿には不一致が生じます。

販売オフィスと、関係する購買オフィスの勘定を一致させるために内部原価と収益取引を自動的に登録し、必要時に内部請求を生成するには、関係会社間取引を設定する必要があります。

レート換算基準

販売のレート換算基準

レート換算基準を指定して、為替レートを決定する日に使用する日付を決定できます。外国通貨の金額は、有効な為替レートに基づいて自国通貨に換算されます。

会社の通貨システムでは、金額の計算や登録方法を定義します。会社 (tceemm1170m000) セッションの [通貨システム] フィールドで定義できます。

次の利用可能な通貨システムがあります。

- 単一通貨
- 独立通貨
- 依存通貨

通貨システムに基づいて、販売で次のレート換算基準を指定できます。

通貨システム:	単一通貨
---------	------

レート換算基準:	[伝票日付] [予定入出金日] [マニュアル入力] [固定] [納期]
----------	---

通貨システム:	独立通貨
---------	------

レート換算基準:	[伝票日付] [予定入出金日] [マニュアル入力] [固定ハード] [固定ローカル] [固定ローカルとハード] [納期]
----------	--

通貨システム:	依存通貨
---------	------

レート換算基準:	[伝票日付] [予定入出金日] [マニュアル入力] [固定] [納期]
----------	---

注意

各レート換算基準の機能の詳細は、レート換算基準 (ページ 29)を参照してください。

為替レート換算基準

標準通貨システムで使用できるのは、[伝票日付] および [マニュアル入力] です。

- 伝票日付
その伝票が作成された日時において有効なレートが、自動的に使用されます。[伝票日付] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。このレートはマニュアルで変更できます。
レートは、請求書が転記された時点で、請求によって更新されます。
- マニュアル入力
このレートはマニュアルで入力できます。デフォルトでは、伝票が作成された日時に有効なレートを使用します。[マニュアル入力] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
- 納期
商品がまだ納入されていない場合、オーダ日に有効なレートが使用されます。ただし、このオーダ日が過去の日付の場合は、現在の日付に有効なレートが使用されます。
商品が納入されている場合は、実際納期に有効なレートを使用します。
[納期] レート換算基準は、販売オーダ、サービスオーダ、および販売請求書にのみ適用されます。このレートをマニュアルで変更することはできません。
- 入庫日
その商品の入庫が予定されている日時において有効なレートが使用されます。[入庫日] レート換算基準は、購買オーダおよび購買請求書にのみ適用されます。このレートをマニュアルで変更することはできません。
- 予定入出金日
その販売請求書または購買請求書の予定支払日時において有効なレートが自動的に使用されます。

予定入出金日 = 予定納期 ÷ 入庫日 + 支払期間

支払期間は、支払条件 (tcms0113s000) セッションで指定されます。[予定入出金日] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。このレートをマニュアルで変更することはできません。

レートは、請求書が転記された時点で、請求によって更新されます。

- 固定
このレート換算基準は、依存通貨システムまたは単一通貨システムでのみ使用できます。
[固定] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨と参照通貨間の換算レートをマニュアルで入力した場合、そのレートは固定レートとなります。マニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。
- 固定ハード
このレート換算基準は、独立通貨システムでのみ使用できます。[固定ハード] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨とレポート通貨間の換算レートをマニュアルで入力した場合、そのレートは固定レートとなります。現地通貨レートは、実際の伝票の伝票日付に基づいています。
取引通貨とレポート通貨間の換算レートをマニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。

- 固定ローカル
このレート換算基準は、独立通貨システムでのみ使用できます。[固定ローカル]レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨と現地通貨間のレートをマニュアルで入力した場合は、レートが固定されます。その他のレートは、実際の伝票の伝票日付に基づいています。
現地通貨レートをマニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。
- 固定ローカルとハード
このレート換算基準は、独立通貨システムでのみ使用できます。[固定ローカルとハード]レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨と自国通貨間の換算レートをマニュアルで入力した場合、そのレートは固定レートとなります。現地通貨レートは、実際の伝票の伝票日付に基づいています。
取引通貨と自国通貨間の換算レートをマニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。

販売オーダーテンプレート

同じ (グループの) 取引先から繰り返し発生する販売オーダーには、販売オーダーテンプレートを指定できます。販売オーダーまたは販売オーダーラインはオーダーテンプレートから生成できます。

オーダーテンプレートを指定するには、次のステップを実行します。

1. 販売オーダーテンプレートグループ (tdsls2125m000) セッションでテンプレートグループを指定します。
2. 必要に応じて、販売オーダーテンプレートグループ別販売先取引先 (tdsls2126m000) セッションで、そのテンプレートグループに 1 つまたは複数の販売先取引先をリンクします。
3. 販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションで、次の作業を実行します。
 - テンプレートグループ、販売先取引先、および有効性を識別するオーダーテンプレートを指定します。
 - 品目およびオーダー数量が含まれるラインをオーダーテンプレートに追加します。

注意

- 販売オーダーテンプレートのコピー (tdsls2205m000) セッションで既存のテンプレートから情報をコピーして、新しいテンプレートを作成することができます。
- 販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000)、販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000)、および販売オーダーテンプレートライン (tdsls2506m000) セッションでは、販売オーダーをテンプレートにコピー (tdsls2204s000) セッションを開始し、履歴、または現在の販売オーダーのいずれかから既存の販売オーダーラインをオーダーテンプレートにコピーできます。
- 販売オーダーテンプレートライン (tdsls2506m000) セッションでは、カタログまたは品目販売から品目を他のテンプレートにインポートできます。
- 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションでオーダーテンプレートを販売オーダーに挿入できます。
- 顧客 360 (tdsmi1500m000) セッションから販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションを開始すると、選択した取引先のテンプレートに基づいて販売オーダーを直接生成できます。

テンプレートに基づいた販売オーダーラインの指定

テンプレートに基づいて販売オーダーラインを指定するには、次の操作を実行します。

1. 1 つまたは複数の販売オーダーテンプレートを指定します。

2. 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで、[新規販売オーダーの追加] ボタンをクリックしてヘッダデータを指定します。
3. 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションの [ライン] タブの適切なメニューで、[販売オーダーテンプレート] を選択します。
4. その取引先に使用できるテンプレートの数が確認されます。利用可能なテンプレートが 1 つしかない場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションが開始されます。より多くのテンプレートが利用可能な場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションが開始されます。
5.
 - 販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションが開始された場合は、[全品目ラインのコピー] または [選択ラインのコピー] をクリックして、すべての品目ラインまたは選択した品目ラインを販売オーダーにコピーできます。
 - 販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションが開始された場合は、テンプレートを選択し、[全品目ラインのコピー] をクリックして、すべての品目を販売オーダーにコピーできます。特定の品目ラインを選択するには、テンプレートをダブルクリックします。開始された販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションで、ラインを選択することができます。

テンプレートに基づいた販売オーダーの生成

テンプレートに基づいて販売オーダーを生成するには

1. 1 つまたは複数の販売オーダーテンプレートを指定します。
2. 顧客 360 (tdsmi1500m000) セッションで、[販売オーダーテンプレート] をクリックします。
3. その取引先に使用できるテンプレートの数が確認されます。利用可能なテンプレートが 1 つしかない場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションが開始されます。より多くのテンプレートが利用可能な場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションが開始されます。
4. これらのいずれかのセッションの適切なメニューで [販売オーダーの生成] を選択します。選択した取引先のテンプレートに基づいて販売オーダーが生成されます。

注意

販売先取引先が販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションまたは販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションで指定された場合、テンプレートだけでなく、これらのセッションから販売オーダーを生成することも可能です。

一般販売データ

販売手順を完了するには、事前に、オーダー変更を追跡し変更の理由を判断するためのデータ、販売オーダーを自動的にブロックするための条件と理由、オーダー優先順位シミュレーションなどの一般販売データを指定しておく必要があります。

オーダー変更を追跡し、変更の理由を判断するデータの指定

オーダー処理のライフサイクルの途中で販売先取引先の要求が変化することがあるため、販売オーダーは動的な文書になる場合があります。販売マスターデータでは、これらの調整と、これらの変更が加えられた理由を追跡するための情報を指定できます。変更コードと確認コードは、オーダーのさまざまな変更を追跡するために使用されます。この機能は、特に EDI を使用して機能する設計になっていますが、EDI 機能のない会社でもこれらのコードを使用して変更を記録することができます。

変更コードを使用すると、履歴目的で追跡されるオーダー変更に関する情報をメンテナンスできます。確認コードを使用すると、変更情報をオーダー文書にマニュアルで追加できます。その後、これらの変更が販売オーダー確認によって販売先取引先に送信されます。

変更のメンテナンスおよび追跡を行うには:

1. 変更理由 (tdsls0197m000) セッションを使用して、変更理由を表すコードをメンテナンスします。このコードを、変更されたオーダーまたはオーダー確認に割り当てると、変更が加えられた理由を明確にすることができます。この情報は、履歴レポートのために追跡できます。
2. 変更タイプ (tdsls0198m000) セッションを使用して、変更タイプを指定します。これらのタイプは、オーダーラインの変更、オーダーラインの追加、ヘッダデータの変更など、販売オーダーやオーダー確認に対する変更の種類を示します。変更タイプは、変更がオーダーに加えられた後、販売オーダーに割り当てられます。
3. 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションを使用して、さまざまなデフォルトの変更コードおよび変更タイプを指定します。変更があった場合、これらのデフォルトは販売オーダーラインに設定されます。
4. 販売オーダー-変更オーダー連番 (tdsls0153m000) セッションを使用して、オーダーまたはオーダー確認に対する変更をグループ化するために使用されるオプション番号を指定します。このセッションには、実際のオーダー番号を指定する必要があるため、通常は販売オーダー画面からアクセスします。

5. 販売確認 (tdsls0154m000) セッションを使用して、販売オーダ確認とコードの割当先 ([ヘッダ]、[ライン]、または [任意]) を指定します。確認コードには、販売確認文書に表示される情報のグループが含まれます。このコードには、販売オーダの変更理由を含めることができます。
6. 販売確認コードの割当 (tdsls0155m000) セッションを使用して、確認コードにより示された販売確認文書に含める情報を指定します。確認コードは、販売オーダラインの特定のフィールドに割り当てることができます。このコードは、変更が特定のフィールドに発生するときのデフォルトのコードです。さらに、承認コード割当が実行されるアクション (ラインの追加、ラインの変更) とソース (EDI、マニュアル、または任意) も指定します。たとえば、既存の販売オーダにオーダラインをマニュアルで追加し、かつオーダ数量が変更された場合、指定済の確認コードがこの販売オーダラインに割り当てられます。

オーダブロックの理由の指定

ある取引先の販売オーダ入力をブロックすることや、取引先の販売オーダの処理を停止することが必要になる場合があります。販売オーダを自動的にブロックする条件を指定して、オーダがブロックされた理由を示す保留理由を指定できます。これにより、オーダを確認して、適切なアクションを実行する機会を持つことができます。販売先取引先のオーダの保留には、多くの理由が存在する可能性があります。たとえば、販売先取引先が与信限度額を超過した、請求書の支払期限を超過した、請求書に異議を唱えているなどです。

オーダブロック機能を使用するには:

1. 保留理由 (tdsls0190m000) セッションで保留理由を指定します。
2. 取引先タイプ別保留理由 (tdsls0593m000) セッションでは、販売オーダラインが特定の理由でブロックされた場合に実行するアクションを指定できます。このアクションは、取引先タイプと保留理由によって決まります。
3. 販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションで、オーダをいつ自動的にブロックするかを指定します。[ブロック] タブで、標準ブロック状況を指定します。[理由] タブでは、ブロック状況の理由を追加できます。
4. オーダタイプ (tdsls0694m000) セッションの [活動時点でブロック] フィールドで、販売オーダ手順を自動的に中断するステップを指定します。オーダ (ライン) をブロックする場合、このオーダ手順は部分的にのみ実行できます。このセッションでブロックステップを指定しない場合、オーダ手順は中断されません。

オーダ優先順位シミュレーションの指定

オーダ優先順位シミュレーションを使用するには:

1. 販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションで、[オーダ優先方法] フィールドを [シミュレーション] に設定します。これにより、オーダ優先順位はシミュレーションコードに指定されたフィールドの値に基づいて計算されます。
2. 優先順位シミュレーション (tdsls4524m000) セッションで、優先順位シミュレーションの作成に使用されるコードを指定します。優先順位シミュレーションには、識別コードおよび説明、ソート順序、ソートモードが含まれています。ソート順序とソートモードは、販売オーダがソートされる基準です。オーダがソートされる方法により、優先順位が決まります。シミュレーションを作成するために、シミュレーションコードで指定されたソート基準が、ユーザが選択した販売オーダのグループに適用されます。販売オーダをソートするために、各シミュレーションコードに6つのフィールドを選択することができます。

販売オーダーラインからデフォルトのフィールドが取得されますが、販売オーダーと取引先のフィールドも使用できます。

オーダーの変更/確認

ある会社の購買オーダーは、別の会社の販売オーダーにリンクされます。したがって、購買オーダーの変更は対応する販売オーダーに影響することがあります。また逆に、販売オーダーの変更が対応する購買オーダーに影響することがあります。変更オーダー情報の処理を指定できます。

変更オーダーパラメータ

次の表に、変更オーダー情報の処理を決定するパラメータを示します。

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)	購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400)
[変更コードのメッセージ]	[変更コードのメッセージ]
[変更コード必須]	[変更コード必須]
[変更オーダー連番の自動割当]	[変更オーダー連番の自動割当]
[追加オーダーラインのデフォルト変更理由コード]	[追加オーダーラインのデフォルト変更理由コード]
[追加オーダーラインのデフォルト変更タイプ]	[追加オーダーラインのデフォルト変更タイプ]
[変更オーダーラインのデフォルト変更理由コード]	[変更オーダーラインのデフォルト変更理由コード]
[変更オーダーラインのデフォルト変更タイプ]	[変更オーダーラインのデフォルト変更タイプ]
[取消オーダーラインのデフォルト変更理由コード]	[取消オーダーラインのデフォルト変更理由コード]
[取消オーダーラインのデフォルト変更タイプ]	[取消オーダーラインのデフォルト変更タイプ]

オーダーの変更および確認

ステップ 1: 購買オーダー (ライン) の変更

販売先取引先が購買オーダーを変更すると、購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの次のフィールドが入力可能になります。

- [変更理由]
- [変更タイプ]
- [変更オーダー連番]

販売先取引先が購買オーダーラインを変更すると、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションの次のフィールドが入力可能になります。

- [ライン変更理由]
- [ライン変更タイプ]
- [変更オーダー連番]

ステップ 2: 変更を通知

販売先取引先は、購買オーダー (ライン) の変更について購買元取引先に通知する必要があります。販売先取引先は、電話、EDI メッセージ、メールなどの方法で購買元取引先に通知することができます。

ステップ 3: 変更を実装

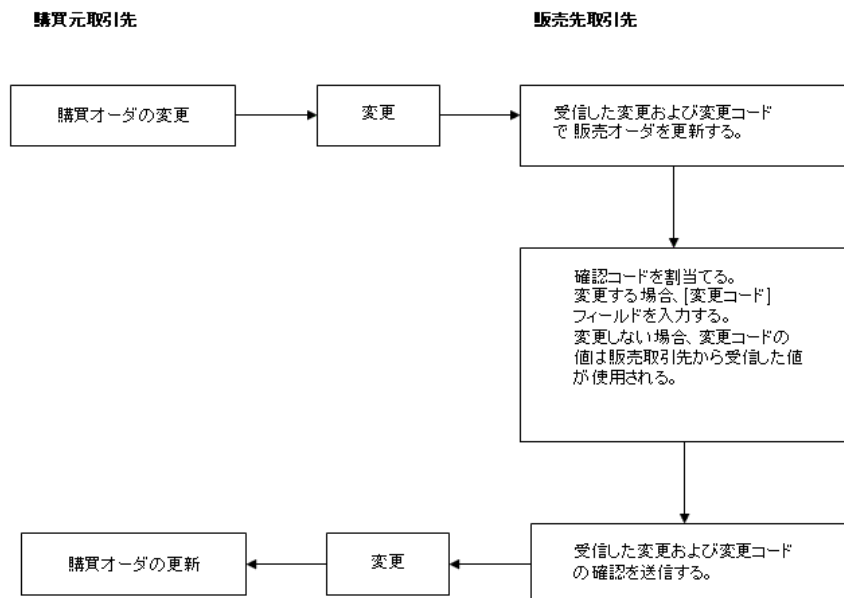
購買元取引先が変更合意した場合、対応する販売オーダー (ライン) に同じ変更を行う必要があります。変更を承認するために、購買元取引先は次のフィールドを指定する必要があります。

- オーダーライン変更の場合、販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [確認] フィールド
- オーダーライン変更の場合、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [確認] フィールド

購買元取引先は、要求された変更にも変更を加えることができます。この場合、購買元取引先は変更を上書きできます。購買元取引先は、販売オーダー (ライン) を更新した後、(変更の) 確認を販売先取引先に送付します。

購買元取引先が販売オーダー (ライン) を変更する場合、上記手順の販売先取引先を購買元取引先に置き換え、購買オーダー (tdpur4100m000) セッションおよび購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションを販売オーダー (tdsls4100m000) セッションおよび販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションに置き換えて読むことができます。

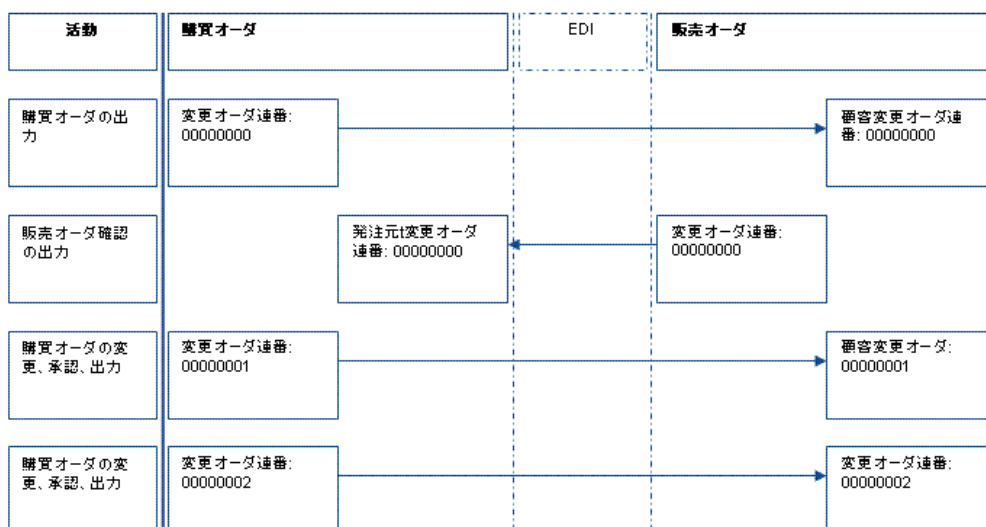
例



電子データ交換 (EDI) を使用して変更を通知する場合、次の取引先から受領した最新の変更オーダー連番を表示できます。

- 購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの [発注先変更オーダー連番] フィールドに指定されている購買元取引先
- 販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [顧客変更オーダー連番] フィールドに指定されている販売先取引先

例



変更の出力

変更した購買オーダーを再出力できます。また、変更部分のみを出力することも可能です。購買元の取引先 (tccom4120s000) セッションの [例外別購買オーダーの出力] チェックボックスにより、出力される変更が決まります。

また、変更した販売オーダーを再出力し、その変更部分のみを出力することもできます。販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [例外別の確認] チェックボックスにより、出力される変更が決まります。

EDI と新規ラインまたは変更の出力

EDIを使用してオーダーをすでに出力していた場合、次の制限が適用されます。オーダーセッションまたはオーダーラインセッションの [変更タイプ] フィールドを指定している場合、新規オーダーラインまたはオーダー (ライン) の変更部分のみを出力できます。

注意

購買オーダーライン状況 (tdpur4534m000) セッションまたは販売オーダーライン状況 (tdsls4534s000) セッションでオーダーがすでに出力されているかをチェックできます。新規オーダーラインや変更を出力する場合、いつでもオーダーセッションまたはオーダーラインセッションに戻って [変更タイプ] フィールドを指定できます。

追加コスト

追加コスト - 概要

オーダーまたは出荷に追加コストを課すために販売オーダーまたは出荷に配置できる追加コストを指定できます。

追加コスト - 設定

追加コストを販売オーダーおよびスケジュールにリンクするには、事前に、マスターデータを定義する必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 追加コスト - 設定 (ページ 39)

追加コスト - タイプ

追加コストは、オーダー基準または出荷基準にできます。

- オーダー基準
販売オーダーまたは販売オーダーラインの追加コストが計算されます。販売オーダーの承認後、追加コストは、最終品目を記録した後に追加コスト (品目) としてオーダーに配置できます。
- 出荷基準
出荷または出荷ラインの追加コストが計算されます。出荷の確認後、1 つの出荷 (ライン) についてすべての追加コストを含む販売出荷コストオーダーが生成されます。

注意

オーダ基準の追加コストは販売オーダのみに適用され、販売スケジュールには適用されません。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 追加コスト - オーダ基準 (ページ 41)
- 追加コスト - 出荷基準 (ページ 42)

追加コスト - 設定

追加コストの設定 - 手順

追加コストを使用および設定するには、次のマスタデータを指定する必要があります。

ステップ 1: パラメータ

オーダ基準の追加コスト	出荷基準の追加コスト
販売オーダパラメータ (tdsls0100s400)	販売オーダパラメータ (tdsls0100s400)
[追加コストの計算]	[追加コストの計算]
[追加コストセットの先頭位置番号]	[追加コストの再計算]
[追加コストの再計算]	[追加原価ラインを請求に自動発行]
[追加原価ラインを請求に自動発行]	[出荷基準コストオーダの自動承認]
-	[出荷コストオーダシリーズ]
-	[出荷コストオーダタイプ]
-	在庫処理パラメータ (whinh0100m000)
-	[出荷の追加コストを計算]

ステップ 2: 販売先取引先 (tccom4510m000)

詳細セッションの [価格設定] タブで、次のフィールドを指定します。

- [追加コストの計算]
- [追加コストを計算]
- [追加コスト計算方法]

ステップ 3: 販売追加コストセット (tdsls0624m000)

- ヘッダ
ヘッダは追加コストセット販売 (tdsls0124m000) セッションを参照しています。このセッションでは追加コストを追加コストセットにグループ化する必要があります。
- ライン
販売追加コストセット (tdsls0624m000) セッションの [ライン] タブ販売追加コストセットライン (tdsls0528m000) セッションを参照しています。このセッションでは、コストセットに属する原価品目を指定する必要があります。追加コストライン上で、いつ追加コストを適用するのか、およびどのようにこれらの追加コストを取得または計算する必要があるのかを指定できます。
- シナリオ
販売追加コストセット (tdsls0624m000) セッションの [シナリオ] タブは販売追加コストセットシナリオ (tdsls0527m000) セッションを参照しています。このセッションでは、追加コストシナリオを指定する必要があります。追加コストセットは追加コストセットシナリオを通じて検索できます。
出荷基準の追加コストは出荷依存または品目依存のどちらでもかまいません。
 - 出荷依存原価
これらの追加コストは取引先に割当られ、完了した取引先へのお荷に基づきます。販売追加コストセットシナリオ (tdsls0527m000) セッションを使用して、デフォルトの追加コストセットを価格リスト、または販売先取引先および出荷先取引先もしくはその一方へリンクできます。
 - 品目依存原価
これらの追加コストは特定の品目に割当られ、販売スケジュール出荷にのみ適用されます。これらの原価は出荷ラインに基づくもので、出荷に依存する追加コストに加えることができます。販売契約ライン (tdsls3501m000) セッションおよび販売追加コストセットシナリオ (tdsls0527m000) セッションを使用して、デフォルトの追加コストセットを品目にリンクできます。販売契約ライン (tdsls3501m000) セッションの優先順位がもっとも高くなります。

ステップ 4: 価格帳ライン (tdpcg0131m000)

追加コストセットで指定された原価品目は、価格帳で価格を設定する必要があります。価格帳ライン (tdpcg0131m000) セッションで、追加コスト品目の請求を定義します。

価格帳ライン (tdpcg0131m000) セッションで次のステップを実行します。

1. 価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [デフォルト販売価格帳] フィールドで定義する価格帳を選択します。
2. 必要な原価品目を選択します。
3. 価格境界を定義します。

販売追加コストセットシナリオ (tdsls0527m000) セッションから販売オーダーまたは出荷 (ライン) の追加コストセットが取得されると、販売追加コストセットライン (tdsls0528m000) セッションの [決定] グループボックスのフィールドによって、コストラインが販売オーダーまたは出荷 (ライン) のどちらに適用されるかが決まるため、価格は品目の価格帳から取得する必要があります。

その必要がある場合、販売追加コストセットライン (tdsls0528m000) セッションの [原価] グループボックスのフィールドに基づき、価格帳から正しい価格を取得するために使用される数量が計算されます。

追加コスト - オーダ基準

販売オーダまたは販売オーダラインのオーダ基準の追加コストが計算されます。販売オーダの承認後、追加コストは、最終品目を記録した後に追加コスト (品目) としてオーダに配置できます。

オーダ基準の追加コスト - 手順

オーダ基準の追加コストの手順では、次のステップが実行されます。

ステップ 1: 追加コストの販売オーダラインの生成

有効な追加コストラインがある追加コストラインがオーダ (ライン) に対して検出された場合、販売オーダの承認後、これらのコストラインは、販売オーダライン (tdsls4101m000) セッションで追加コスト (品目) としてオーダに追加されます。

これらの販売オーダラインには、次のことが当てはまります。

- [追加コストライン] チェックボックスはオンになります。
- 追加コスト金額が [金額] フィールドに表示され、[価格] フィールドは空になります。
- 販売先取引先の [追加コスト計算方法] が [ヘッダ基準] の場合、位置番号が販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加コストセットの先頭位置番号] フィールドから取得されます。[ライン基準] 追加コストを持つ販売オーダラインには標準の位置番号があります。
- [ライン基準] の追加コストがある販売オーダラインの場合、販売オーダラインごとの追加コストライン (tdsls4527m000) セッションで販売オーダラインにリンクされた追加コストラインを表示できます。

ステップ 2: 追加コストライン品目の出庫

品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスの値に基づいて、原価品目の出庫が倉庫管理または販売で実行されます。

そのため、販売オーダラインに関して販売オーダの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) または販売納入 (tdsls4101m200) 活動のいずれかを実行する必要があります。

販売オーダ/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の前に販売納入 (tdsls4101m200) が実行されていない場合、販売オーダ/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションの実行中は、活動が [実行] に設定されます。そのため、販売納入 (tdsls4101m200) を実行することは任意です。

ステップ 3: 追加コストラインの請求への発行

販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] フィールドによって、追加コストラインをどのように請求へ発行する必要があるかが決まります。

ステップ 4: 追加コストラインの処理

納入済販売オーダは、納入済販売オーダの処理 (tdsls4223m000) セッションで追加コストラインと一緒に処理されます。

備考

- [ライン基準] の追加コストラインは特定の販売オーダーラインにリンクされるため、それらはオリジナルの販売オーダーラインと一緒にのみ発行または処理できます。リンクされた一部の追加コストラインで処理の準備が整っていない場合は、販売オーダーラインを処理できません。
- 販売オーダ(ライン)をコピーする場合は、リンクされた追加コストラインは新しいオーダ(ライン)にはコピーされません。追加コストラインをマニュアルでコピーする場合は、原価品目のある通常販売オーダーラインが生成されます。
- 販売オーダーラインが削除または取り消されると、リンクされた追加コストラインも削除または取り消されます。追加コストラインはマニュアルで削除または取り消すこともできます。
- 販売オーダーラインが納入前に分割された場合、追加コストラインは作成された各販売オーダ納入ラインにリンクされます。これらの追加コストラインは、新しい位置番号を取得しますが、連番は0のままです。そのため、追加コストラインは連番レベルでは作成されません。
- 販売バックオーダーラインには追加コストラインをリンクすることができます。ただし、追加コストは実際の出荷済数量ではなく、オーダ数量に基づいて計算されるため、原価が過度に高くなります。これを処理するには、貸方票が必要です。
- 販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] チェックボックスがオンの場合は、分割払に追加コストを含めることができます。
- 顧客承認が実装されている場合、追加コスト機能は使用できません。

追加コスト - 出荷基準

出荷基準の追加コストは販売出荷または出荷ラインについて計算されます。出荷(ライン)の確認後、出荷(ライン)に基づいて販売コストオーダが生成されます。発生元が[出荷]の販売コストオーダには、1つの出荷(ライン)の追加コストがすべて含まれています。

注意

- 複数の販売オーダーラインおよび販売スケジュールラインは1つの出荷にリンクできます。
- 出荷にリンクされた販売出荷コストオーダおよびオーダ/スケジュールラインには、共通の出荷 ID が割り当てられます。この ID に基づいて、完了した出荷を顧客に請求できます。関連するオーダ/スケジュールラインと販売出荷コストオーダは、まとめて請求に発行できます。

出荷基準の追加コスト - 手順

出荷基準の追加コストの手順では、次のステップが実行されます。

ステップ 1: 販売出荷コストオーダの生成

出荷(ライン)で有効な追加コストラインのある追加コストセットが検出された場合、出荷 - ライン (whinh4131m000) セッションで出荷依存および品目依存の追加コストが個別の出荷ラインとして出荷に追加されます。追加出荷原価ラインが倉庫管理で生成されます。出荷が確認されると、販売オーダ (tdsls4100m000) セッションで [出荷] 発生元がある販売オーダが生成されます。

これらの販売オーダーには、次のことが当てはまります。

- 販売オーダータイプとオーダーシリーズは販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [出荷コストオーダータイプ] フィールドと [出荷コストオーダーシリーズ] フィールドから取得されます。
- 販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [出荷] フィールドにはこれらのオーダーが自動的に入力されます。
- この販売オーダーに表示できるのは、原価品目とサービス品目のみです。
- 生成された販売オーダーラインの [追加コストライン] チェックボックスはオンになります。
- 追加コスト金額が [金額] フィールドに表示され、販売オーダーラインの [価格] フィールドは空になります。販売納入 (tdsls4101m200) 活動が実行されるまでは [金額] を変更することができます。この後、納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションまたは販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションで納入済額を変更できます。

ステップ 2: 販売出荷コストオーダーの承認

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [出荷基準コストオーダーの自動承認] チェックボックスによって、販売出荷コストオーダーをどのように承認する必要があるかが決まります。

ステップ 3: 追加コストライン品目の出庫

品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスの値に基づいて、原価品目の出庫が倉庫管理または販売で実行されます。

そのため、販売オーダーラインに関して販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) または販売納入 (tdsls4101m200) 活動のいずれかを実行する必要があります。

販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の前に販売納入 (tdsls4101m200) が実行されていない場合、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションの実行中は、活動が [実行] に設定されます。そのため、販売納入 (tdsls4101m200) を実行することは任意です。

ステップ 4: 販売出荷コストオーダーの請求への発行

出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーおよびオーダー/スケジュールラインには、共通の出荷 ID が割り当てられます。この ID に基づいて、完了した出荷を顧客に請求できます。販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションで [出荷] チェックボックスをオンにすると、出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーとオーダー/スケジュールラインが請求にまとめて発行されます。

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] フィールドによって、販売出荷コストオーダーをどのように請求に発行する必要があるかが決まります。

出荷 ID は、次のセッションで表示できます。

- 販売出荷コストオーダー
販売オーダー (tdsls4100m000)
- 販売出荷コストオーダーライン
リンクオーダーラインデータ (tdsls4102s200)
- 販売オーダーライン
販売オーダー実際納入ライン (tdsls4106m000)

- 販売スケジュールライン
販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000)

ステップ 5: 追加コストラインの処理

販売オーダと販売スケジュールは、納入済販売オーダの処理 (tdsls4223m000) セッションおよび納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで追加コストラインと一緒に処理されます。

出荷/出荷ラインの追加コストの計算

出荷/出荷ラインの追加コストの計算は、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [追加コスト計算方法] フィールドの値に基づきます。出荷の場合は、[追加コスト計算方法] を [ヘッダ基準] にする必要があり、出荷ラインの場合は、[ライン基準] にする必要があります。

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの [出荷の追加コストを計算] チェックボックスがオンの場合は、販売オーダと販売スケジュールの追加コストが計算されます。

- 販売オーダ
取引先 (または品目、あるいは両方) のコストセットを使用して追加コストが計算されます。
- 販売先取引先 (tccom4110s000) セッションで [追加コスト計算方法] が [ヘッダ基準] の場合、追加コストラインは出荷ごとの合計に基づき、発生元出荷ラインへのリンクは保存されません。
- [追加コスト計算方法] が [ライン基準] の場合は、追加コストが発生元オーダラインごとに計算され、発生元出荷ラインへのリンクが保存されます。
- 販売スケジュール
取引先 (または品目、あるいは両方) のコストセットを使用して [ヘッダ基準] 追加コストが計算されます。追加コストラインは出荷ごとの合計に基づき、発生元出荷へのリンクは保存されません。
- 契約のコストセットの [ライン基準] 追加コストが計算されます。この計算は、常に、[追加コスト計算方法] とは無関係です。生成された追加コストラインは発生元オーダラインにリンクされます。コストを計算する前に、すべての出荷ラインの数量を追加できます。これは、オーダラインごとに複数の出荷ラインがある在庫内のシリアルに適用できます。

出荷の確認

確認済出荷ラインで、追加コストラインの状況が [未計算] の場合は、追加コストが再計算されます。状況が [修正済] の場合は、追加コストを再計算するか、再計算をスキップするかが LN で確認されます。追加コストの再計算後、出荷 (whinh4130m000) セッションの [追加コスト] フィールドは [計算済] に設定されます。

出荷の構成

関連する追加コストラインは、出荷の構成 (whinh4231m000) セッションで選択されたオプションに従って処理する必要があります。

適切なメニューで、次の項目をクリックします。

- [ライン分割] : 発生元の出荷ラインの状況が [修正済] にリセットされ、追加コストラインが削除されます。発生元ラインの確認中に、追加コストが再計算されます。

- [出荷へ移動] : 発生元出荷ラインの追加コストが新しい出荷ラインに移動されます。

梱包票および納品書

梱包票の出力 (whinh4475m000) セッションおよび納品書の出力 (whinh4477m000) セッションでは、ヘッダ基準の追加コストが最初のラインとして出力されます。ライン基準の追加コストはリンクされた出荷ラインの下に出力されます。

メニュー

オーダー入力を容易にする、1つの一般品目で分類された同じような特徴を持つ品目のグループから成る品目のタイプ。グループ内の品目は個別に選択できます。

例

モニタ、マウス、CDプレーヤーは、パーソナルコンピュータを構成するために使用する関連品目として定義されます。しかし、マウスを個別の品目として選択することもできます。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

オプション

同様の他の品目と1つまたは2つの特徴が異なる一般品目タイプ。たとえば、主な特徴が同じで、サイズと色が異なる椅子のグループなどです。

レート換算基準

換算レートを決定するための日付を指定する方法

決定した換算レートに基づいて、構成プロセスで外国通貨の総額が自国通貨に換算されます。

活動

購買/販売オーダータイプについて実行しなくてはならない手順。活動は、購買/販売オーダータイプについて実行しなくてはならないセッションまたはマニュアルアクションを意味します。

分割払

請求の支払を一定期間にわたって分割するために使用される、インクリメンタルな支払方法。分割払によって、オーダーされた商品が実際に納入される前または後に、販売オーダーの請求書を送ることができます。

販売スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。販売スケジュールは、頻繁に納入される長期の販売をサポートします。品目、販売先取引先、出荷先取引先、および納入パラメータが同じである要求はすべて、同じ販売スケジュールに保存されます。

計画品目

オーダーシステムが [計画] の品目

これらの品目の製造、物流、または購買は、需要予測または实际需要に基づいて企業計画で計画されます。

次の方法によって、品目を計画できます。

- マスタ準拠計画。基準生産計画手法と同じです。
- オーダ準拠計画。資材所要量計画手法と同じです。
- マスタ準拠計画とオーダ準拠計画の組合せ

計画品目は次のいずれかです。

- 実際の製造品目または購買品目
- 製品ファミリ
- 基本モデル (一般品目の定義済製品バリエーション)

類似の計画品目またはファミリのグループは製品ファミリと呼ばれます。個々の品目に対する計画よりも汎用的な計画にするために、品目が統合されます。品目コードのクラスタセグメントによって表示されるコードで、計画品目が配分計画に使用されるクラスタ品目であることが示されます。

販売オーダーライン

販売オーダーは、特定の条件にしたがって顧客に納入される品目を含みます。販売オーダーのラインは、オーダーされる品目、および関連する価格合意や納期の記録に使用されます。

オーダーリードタイム

品目の製造時間は、工順作業に定義されるリードタイム要素に基づいて時間数または日数で示されます。

販売オーダー

特定の条件にしたがって取引先に品目またはサービスを販売するために使用される合意。販売オーダーは、1 つのヘッダおよび 1 つ以上のオーダーラインから成ります。

取引先データ、支払条件、受渡条件などの一般オーダーデータは、ヘッダに保存されます。価格合意や納期など、発注される実際の品目についてのデータは、オーダーラインに入力されます。

キット

顧客からのオーダー時に合わせて納入される事前定義された品目のリスト

キットを定義することで、オーダー入力が容易にできます。キットは、構成要素のリストが含まれていて、単一品目としてオーダーされ、価格設定されます。販売オーダーラインでは、構成品目がリンクされます。キットの標準原価は、構成要素の標準原価の合計です。

キットの構成要素には、次のタイプがあります。

- 購買品目
- 製造品目

例: PC キットの構成要素は、通常、メインキャビネット、モニター、キーボード、およびマウスで構成されます。日曜大工 (DIY) 製品の場合、道具小屋キットに、壁や屋根の部品、蝶番付のドア、ドアの取っ手、および鍵を含めることができます。

追加コスト

追加の梱包や保険などの追加サービスに対する費用。出荷、積荷、または輸送オーダークラスタの輸送費に追加コストが付加されます。追加コストは出荷ラインまたは輸送オーダークラスタラインに課され、顧客に請求できます。これは、取引先との間で結ばれている協定によって決まります。

追加コスト

オーダーまたは出荷の追加コストを課するために販売オーダーまたは出荷に加えることができる原価品目

超過納入

元のオーダー数量からのプラス偏差

リストグループ

リスト品目を分類する手段。たとえば、販売オーダーに使用される複数のリスト品目を 1 つの SLS リストグループによって分類できます。各リスト品目は、複数のリストグループに関連付けることができます。

リスト品目

複数の構成要素で構成される品目のタイプ。また、構成要素は別々に管理され、オーダーされます。リスト品目のタイプ (キット、メニュー、オプション、またはアクセサリ) は構成要素の関連性を表します。

リスト品目はオーダーエントリの処理速度を速くするために使用されます。リスト品目のオーダーラインには、主品目または構成要素を含めることができます。

販売オーダータイプ

オーダー手順の一部であるセッション、およびこの手順が実行される方法および順序を決定するオーダータイプ

販売オフィス

取引先の販売関係を管理するために、会社のビジネスモデル内で明らかにされている部署。販売オフィスは、組織の販売活動の責任を負う保管場所を識別するために使用します。

保留理由

オーダーまたはオーダーラインのブロック理由

オーダーは、オーダー手順のいかなる時点でも2つ以上の理由で保留することができます。たとえば、販売オーダーはマージン管理 (オーダーの総マージンを超える) によってブロックされるのと同時に信用チェック (オーダー残高は顧客与信限度額を超える) によってブロックできます。

オーダー優先順位シミュレーション

在庫をオーダーに割り当てる優先順位を計算できるようにするシミュレーション活動

販売見積

発注先が見込購買者に提案した商品またはサービスの価格計算書、販売条件、記述、入札。顧客データ、支払条件および受渡条件はヘッダに含まれます。実際の品目についてのデータは見積ラインに入力されます。見積依頼への回答として与えられる場合、入札は通常、販売申込とみなされます。

販売契約

販売契約は、商品の納入について、販売先取引先との合意を登録するために使用します。

契約は次の要素で構成されます。

- 一般取引先データが記載され、オプションで条件合意が記載された販売契約ヘッダ
- 品目または価格グループに適用される価格/値引合意および数量情報を持つ、1つまたは複数の販売契約ライン

顧客承認

業務規則の1つ。販売オーダーに基づいて納入される商品の請求書を発行するには、この規則に沿って顧客の承認を得ておく必要があります。納入済商品が承認された時点で、その商品の所有権が発注先から販売先取引先に変更されます。

直送

販売元が商品を購買元取引先からオーダーする処理。購買元取引先はまた、商品を販売先取引先に直接納入しなくてはなりません。販売オーダーまたはサービスオーダーにリンクされた購買オーダーを使用して、購買元取引先は商品を販売先取引先に直接納入します。商品は自社の倉庫から納入されないなので、倉庫管理は関係しません。

販売業者管理在庫 (VMI) のセットアップでは、顧客倉庫の購買オーダーを作成することで直送が達成されます。

販売元は次の理由で直送を決定できます。

- 利用可能在庫の不足
- オーダー数量が時間内に納入できない
- オーダー数量を自社で輸送できない
- 原価および時間が保存される

特急オーダー

できるだけ速やかに実行する必要がある、通常、特別な支払条件および納入条件を必要とするオーダー

代替品目

標準品目がない、納入されていない、または置換されている場合に、標準品目の代用品となる品目

EDI メッセージ

組織とメッセージから成る電子ドキュメント (たとえば、電子オーダー承認)

受信メッセージまたは発信メッセージは、EDI 通信セッションで呼び出された特定のライブラリで処理されます (たとえば、販売管理 (SLS)、販売請求 (SLI)、買掛金 (ACP)、現預金管理 (CMG)、購買管理 (PUR)、在庫処理 (INH)、電子データ交換 (EDI) モジュール)。

電子データ交換 (EDI)

標準フォーマットの標準ビジネス文書のコンピュータ間転送。内部 EDI は、同じ内部会社ネットワーク (マルチサイトまたは複数会社とも呼ばれる) 上での会社間のデータ転送を意味します。外部 EDI は、自社と外部取引先間のデータ転送を意味します。

独立通貨システム

企業構造モデル内で互いに関係づけられているすべての財務会社とロジスティック会社が、共通する 2 種類または 3 種類の自国通貨を使用する通貨システム。すべての取引はそれぞれの自国通貨で登録されます。

為替レートは、取引通貨とすべての自国通貨との間に定義されます。取引金額は、取引通貨から自国通貨に直接換算されます。

次を参照してください: 標準通貨システム

単一通貨システム

会社が 1 つの自国通貨だけを使用する通貨システム

次を参照してください: 標準通貨システム

追加コストセット

複数の追加コストラインおよびシナリオの保存が可能になるコード。コストセットは品目、取引先、または価格リストにリンクできます。またこれらを経由してオーダーや出荷にもリンクできます。

取引先タイプ

類似の特徴 (EU の加盟国や特定の関税規則の対象など) を持つ取引先をグループ化する方法

注意

取引先タイプは、取引先役割または財務取引先グループと同じではありません。

原価品目

追加原価をオーダーに転記するために使用する管理品目。追加原価は、会計費用、決済料金、設計原価および運送原価などです。

原価品目は製造では使用されないため、在庫品目になることはありません。また、原価品目は費用品目とも呼ばれます。

為替レート

通貨を別の通貨に交換できる金額。つまり、特定の時間にある通貨で別の通貨を購入する金額。

販売先取引先

一般的には顧客の購買部署。つまり、企業が扱う商品またはサービスに対してオーダーを出す取引先、企業がメンテナンスを請け負う設備機器の所有者、または企業が実行するプロジェクトの受益者を意味します。

販売先取引先との契約には次のような事柄が含まれます。

- 別途取り決めない限り適用される、価格と値引についての合意内容
- 別途取り決めない限り適用される、販売オーダーについての合意内容
- 受渡条件
- 関連する出荷先取引先および請求先取引先

依存通貨システム

単一会社内で複数の自国通貨を使用できる通貨システム。財務会社は、大半のエンティティに対しては使用する通貨を現地通貨に決めます。すべての取引はそれぞれの自国通貨で登録されます。

外国通貨と参照通貨間、および参照通貨と自国通貨間には、為替レートが設定されます。取引金額はまず参照通貨に換算され、次にその参照通貨による金額が自国通貨に換算されます。

次を参照してください: 標準通貨システム

標準通貨システム

参照通貨によるトライアンギュレーションを適用することなく、外貨取引が取引通貨から現地通貨へ直接変換される通貨システム。デフォルトでは、レポート通貨は取引通貨からレポート通貨に直接変換されますが、さらに現地通貨からレポート通貨を変換することもできます。

アカウントマネージャ

顧客すなわち取引先との関係を維持する担当マネージャ

追加コストシナリオ

オーダまたは出荷の追加コストの決定に使用される検索属性のセット。各シナリオはコストセットにリンクされます。

追加コストライン

追加コストとしてオーダまたは出荷にリンクできる原価品目を含みます。追加コストラインの例として、オーダ金額が一定の値より少ない場合にオーダ原価に追加される管理費や、販売/購買商品の総重量が一定の値を超える場合にオーダに追加される輸送費があります。

変更オーダ連番

購買オーダまたは販売オーダに対する変更が発生した場合に割り当てられる番号

確約状況

販売見積ライン、販売オーダラインまたは販売構成要素ラインを顧客に対して約束できるかどうか、在庫チェックを実行する必要があるのか、あるいはラインの不十分な在庫状況を解決する必要があるのかを知らせる状況

見積ライン

提案された品目と同様に関連した価格合意と数量を記録するために使用するライン。販売見積は1つ以上の見積ラインを含んでいます。

成功率

見積に関連付けられる割合で、取引先が見積を受け入れる可能性を表します。見積が受け入れられると、見積は販売オーダに変換されます。

ユーザプロファイル(販売)

ユーザによって記録されるデフォルトデータで、販売見積、販売契約、販売オーダ、および販売スケジュールの作成に影響します。このデータは、オーダ入力方法、オーダ入力時のデフォルト値などを決定します。

カスタマイズ品目

特定のプロジェクトについての顧客仕様で生産された品目。カスタマイズ品目は、カスタマイズ部品表やカスタマイズ工順を持つことができ、標準品目としては通常は使用できません。ただし、カスタマイズ品目は標準品目または一般品目から派生できます。

計画在庫処理

品目の計画オーダーによる在庫レベルの予測済変更

手持在庫

1 つまたは複数の倉庫内にある商品の物理量。保留在庫も含みます。

同義語: 手持在庫

手持在庫

次を参照してください: 手持在庫 (ページ 54)

低価法 (LCMV)

在庫評価方法 (次を参照) のいずれかに基づいて算出した棚卸資産評価額と、在庫の市場価格とを比較する評価方法。市場価格の方が低い場合、その品目の在庫全体は市場価格によって貸借対照表で評価されます。

棚卸資産評価額の決定に使用できる在庫評価方法は次のとおりです。

評価方法

索引

設定

- 追加コスト, 39
- メニュー, 47
- 適切なメニュー, 47
- テンプレート, 31
- オプション, 47
- レート換算基準, 27, 29, 47
- 活動, 19, 47
- 分割払, 47
- 販売スケジュール, 48
- 計画品目, 48
- 販売オーダーライン, 48
- オーダー
 - 変更/確認, 35
- 購買オーダー
 - 変更/確認, 35
- オーダーリードタイム, 48
- 販売, 7
- 販売オーダー, 35, 48
 - フレキシブルな処理, 23
 - 変更/確認, 35
- キット, 49
- 追加コスト, 38, 49, 49
 - オーダー基準, 41
 - 出荷基準, 42
 - 設定, 39
- 超過納入, 9, 49
- 変更理由, 33
- 販売マスターデータ
 - 一般販売データ, 33
 - 販売組織データ, 19
 - 販売品目データ, 9
- 販売品目データ, 9
- 販売品目
 - デフォルト, 9
 - 取引先データの定義, 10
 - 定義, 9
 - 販売データの作成, 9
- リストグループ, 17, 49
- リスト品目, 17, 49
- リスト構成要素, 17
- 販売組織データ, 19

- 販売オーダータイプ, 49
 - 活動, 19
 - 定義, 19
- 販売オフィス, 19, 50
- ユーザプロファイル, 20
- 在庫不足
 - 処理, 10
- フレキシブルな販売オーダー処理, 23
- 一般販売データ, 33
- 変更コード, 33
- 変更タイプ, 33
- 確認コード, 33
- 保留理由, 34, 50
- オーダーブロック, 34
- オーダー優先順位シミュレーション, 34, 50
- 優先順位シミュレーション, 34
- 販売見積, 50
- 販売契約, 50
- 顧客承認, 20, 50
- 商品の承認, 20
- 納入済商品
 - 承認, 20
- 直送, 27, 51
- 特急オーダー, 51
- 代替品目, 16, 51
 - 品目交換, 16
- タイムフェーズ在庫チェック, 15
- 在庫チェック
 - タイムフェーズ, 15
- 品目交換, 16
- マルチサイト請求, 27
- 通貨システム, 27
- EDI メッセージ, 51
- 電子データ交換 (EDI), 51
- 独立通貨システム, 51
- 単一通貨システム, 52
- 追加コストセット, 52
- 取引先タイプ, 52
- 原価品目, 52
- 為替レート, 52
- 販売先取引先, 52
- 依存通貨システム, 52

標準通貨システム, 53
アカウントマネージャ, 53
追加コストシナリオ, 53
追加コストライン, 53
変更オーダー連番, 53
確約状況, 53
見積ライン, 53
成功率, 53
ユーザプロフィール (販売), 53
カスタマイズ品目, 53
計画在庫処理, 54
手持在庫, 54
低価法 (LCMV), 54
